

特集① びわ湖の魚

水ぬるみ、生き物たちが元気に動き出しました。びわ湖のなかの魚たちの様子はどんなぞじょう。今号は、びわ湖にすむ魚たちに目をあてました。魚たちと人の関わりを知り、彼らが元気に命を繋いでゆるるびわ湖を守るにはどうすればよいかを考える。そんなきっかけを見つけてみたいとおもいます。まずは、いま、どんな魚たちがどういふふうに住息しているのか、調べてみましょう。



びわ湖の固有種たち

〜確認されているのは十四種〜

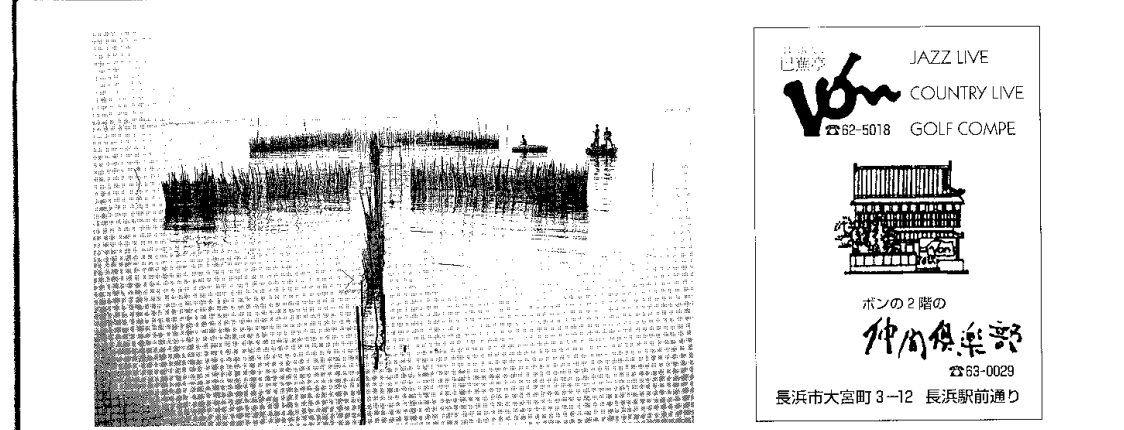
特定の地域にだけ生息が認められる生き物のことを固有種という。だから、「びわ湖の固有種」とは、びわ湖でしかお目にかかれない魚や植物といったものを指す。

固有種が生まれる理由には、その生態系が非常に長い期間外部との接触を絶たれていたことが挙げられる。代表的な例が、ユーラシア大陸から切り離されたオーストラリアとその周辺の島々にだけカンガルーやコアラといった有袋類が生息することだ。今でこそニュージーランドは羊の島というイメージが強いが、それはヨーロッパから産業のために持ち込まれたものだ。それ以前は有袋類だけで生態系が成り立っていたのである。

びわ湖には固有種が多い。それは、びわ湖

が地質的に見ても世界で四番目に古い歴史を持つ湖であり、四百万年という長い期間をかけて独自の生態系が作られていったからである。

しかし、その生態系がここ数年で大きく様変わりしてしまったのは、否定できない。生態系の変化と聞いて一番に連想するのは肉食の外来種の影響であろう。生態系の主要素に食物連鎖の関係があるが、その力関係は相対的なもので、ある地域の王者が他地域でも王者であるとは限らない。バランスなど、いとも簡単に壊れてしまう。それはある種類の絶滅をも意味する。一度姿を消してしまった生物は二度と蘇ることはない。先のオーストラリアでもヨーロッパから持ち込まれた哺乳



Watanabe Club
JAZZ LIVE
COUNTRY LIVE
GOLF COMPE
☎62-5018
ボンの2階の
仲間倶楽部
☎63-0029
長浜市大宮町3-12 長浜駅前通り

乳類の影響で、有袋類はいまや保護が不可欠なのは皆さんもよくご存知であろう。次頁で紹介するのは、びわ湖とびわ湖に注ぐ河川にのみ生息する魚類の固有種である。現在、びわ湖には十四種類の固有種（固有亜種を含む）が確認されている。中には研究が始まったばかりのものもある。（大橋 誠）

固有種 動物分類学上の用語で、同一種に属する地理的品種をさし、相互の形態的差異がはっきりしたものをいう。分布の広い種や移動能力の小さい種では、しばしば地理的に大きな形、色彩などに一定の違いが生まれ、これが亜種である。同標命名規約上では亜種は最低の階級で、それ以下の亜種、型などは規約から除外されている。
（日本大百科全書「小笠原」）

奥びわ湖と竹生園
観光の出発点
人情語りらい...
東浅井郡びわ町南浜湖畔
TEL&FAX 0749-72-2313

びわ湖の外来魚について

「まずは知るってどなんん？」
びわ湖の外来魚ってどなんん？

今、話題となっている「外来魚」。びわ湖の外来魚について、滋賀県水産試験場（彦根市八坂町）の主任専門員、山中治さんと太田豊三さんにお話を伺いました。

びわ湖の「外来魚」って？

「外来魚」とは、もともとびわ湖にはいなかった魚で、とくに外国から移入された魚をこう呼んでいます。

びわ湖で問題になっているのはブルーギルとブラックバス（オオクチバス）です。ほかにも一九九五年以降、ブラックバスの一種のコクチバスが三尾ほどびわ湖で捕獲されましたが、繁殖は確認されていないようです。近年、量的にはブルーギルが大変多くなっています。

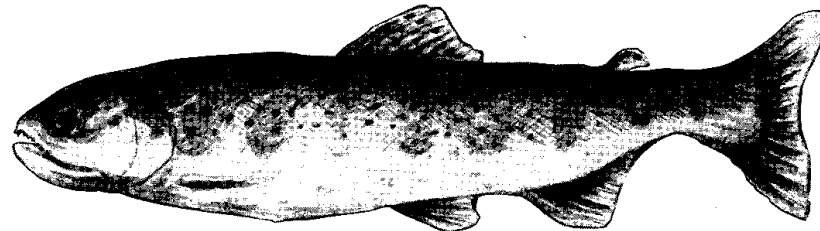
ブルーギルは稚魚や魚卵等を食べ、ブラックバスは魚やエビを好んで食べるため、在来



イサザ（ハゼ科）

日中は深みに群をつくられているが、夜間には表層付近にまで分散するという移動を毎日繰り返す。これは、性成熟に関係することが解っており、このことによって、翌年同じ場所で産卵するウキゴリやトウヨシノボリよりも早く産卵を済ませ、競合を避けることが出来るとされている。

産卵は4月頃、北湖のやや大きめの瀬がある岸辺で行われる。寿命はおおむね2年で、早いものは1年で成熟し、産卵後死亡する。体長7～8cm。※希少種



ビワマス（サケ科）

びわ湖の固有亜種で、10月中旬～11月に川に上って産卵する。産卵後は死亡する。稚魚は5～6月までにはびわ湖に帰り、湖中でコアユ、イサザ、スジエビ、ヨコエビなどを食べて育ち、3～4年後に産卵のため川に上る。体長22～62cm。※希少種



ビワヨシノボリ（仮称）

未詳。まだ研究が始まったばかりである。



ウツセミカジカ（カジカ科）

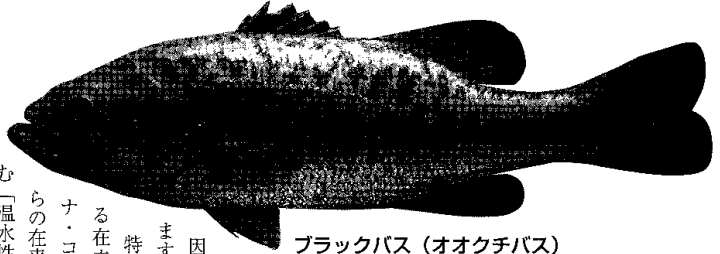
カジカと同様、小魚や水生昆虫幼虫などの小動物を常食とする。泳ぎはヨタヨタと不器用そうに見えるが、いざというときにはなかなか速い。人に良く馴れる。

びわ湖周辺での需要は低く、食用とはされない。以前は、延縄漁で針につける餌として漁師間では売買されていた。エリ、追いさで、四ツ手網などでアユに混獲される。体長7～13cm。※希少種



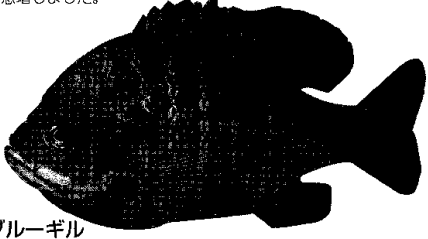
スジシマドジョウ大型種（ドジョウ科）

スジシマドジョウは、1種とされていたものが、近年3種8型に分類された。更に、大型種と小型種うちのびわ湖型は、種として分けられ共に固有の種と位置づけられた。大型種はびわ湖内、あるいは湖に注ぐ河口部などに棲む。小型種は、びわ湖には生息せず周辺河川に棲んでいる。砂底に棲み、シマドジョウ同様に底質によく落ちる。体長10cm。※希少種



ブラックバス（オオクチバス）

全長40～60cm。北アメリカ原産の外来魚。名前のとおり口が大きく、上アゴの後端が目の後縁よりも後ろにあります。肉食性で、魚類やエビ類を食べています。びわ湖では、1974年に初めて北湖で確認され、1979年には全湖へ拡大。1983年に急増しました。



ブルーギル

全長25cm以内。北アメリカ原産の外来魚。名前は「青いエラ」という意味です。雑食性で、藻類や水草、昆虫のほか、魚類やエビ類、稚魚や魚卵等なんでも食べてしまう。びわ湖では、1990年以降、南湖を中心に急増し、1993年に大繁殖しました。
（写真提供（2点とも）/琵琶湖博物館）

魚減少の大きな要因の一つとなっている。特に影響を受けている在来魚はモロコ・フナ・コイなどです。これらの在来魚は、春に卵を産む「温水性魚類」といわれる魚たちなのですが、ブルーギルとブラックバスも、「温水性魚類」とは同じ時期に、また同じ場所で繁殖しています。したがって、「食べる、食べられる」の関係はもろんのこと、「エサの取り合い→エサの減少」という関係も出てくるため、モロコやフナなどの減少につながってしまうわけです。残念。

外来魚による被害って？

では実際にどのくらい被害を受けているのでしょうか。在来魚の中でも、特にフナとホンモロコの減少については外来魚繁殖との因果関係が強いとされています。

フナはブラックバスが増大した一九七九年頃から漁獲量が激減し、ホンモロコはブルーギルが急増した一九九〇年頃から漁獲量が激減しています。

おいしいホンモロコの炭焼き・佃煮や、び

富 FUKUYA や

食を通じて、すてきな時間をあなたに

社員食堂、お弁当、会議食、運動会やイベント時のお食事、パーティーなどのオードブル、etc...

お問い合わせ下さい。

湖北：Tel 0749 (62) 0692
湖東：Tel 0749 (42) 2373